



「毎日忙しいですが、自分には会社で働くよりも教師の方があつているので、楽しんでいます。」真っ黒に日焼けした身体から子どもたちとの充実した毎日がうかがえる。奈良県教員採用試験に外国籍として初めて合格した金秀勇さん。5回の受験を経て、この春から念願の常勤講師（教諭同等待遇）となった。臨時講師として勤務していた生駒市立鹿ノ台小学校に、偶然にも配置され引き続き勤務し、今度は常勤講師として教壇に立つ。今や「(金先生は)優秀な先生」と校長先生からの信頼も厚い。そんな金さんに話を聞いた。



素晴らしい先生方との出会い

教員をめざしたきっかけは。

小学校の5・6年の担任の先生が面白い人で、学校が大好きでした。「こんな先生になりたいな」と思つて学校の先生を漠然と目指し始めました。中学3年の時の担任の先生や、高校時代の世界史の先生、書ききれない程の素晴らしい先生方との出会いがあつたと思います。教師に対してのイメージが良かったので、ずっと夢としてぶれなかったのかもしれない。

奈良教育大学で学ぼうと思われたのは。

奈良で育つたので、奈良で先生になりたいと思ひました。それならと思ひ奈良教育大学を選択しました。奈良教育大学は若草山や東大寺、奈良公園など自然と文化遺産に囲まれ、本当に環境が良く、大学に入学してから改めて奈良が大好きになりました。

在学中は、何を学ばれていたのですか。

社会科で法学を専攻していました。とは言え、現在の副学長の佐野誠先生の下で、「法」だけに捉われずに自由な学びをさせてもらつていました。やはり、在日外国人の問題に興

味があつたので、卒業論文では在日外国人の参政権について研究しました。

一所懸命にやつてこそ、一所懸命の大切さを伝えられる

在学中は、どんな学生でしたか。

4年間サッカー部に所属して、部活中心の生活をずっとしていました。好きなサッカーに真剣に打ち込めたことは、今でも大きなバックボーンになっていると思います。一所懸命にやつたからこそ、今子どもたちにも一所懸命になることの大切さを伝えられると思います。

教員採用試験対策はいつごろから、

どのようにされていきましたか。

3回生の終わりごろに友人に急かされて始めました。当時はあまりキャリアサロンを利用していませんでした。サロンに行つても試験の危機感が募るばかりで嫌だと思つていました。体育や音楽の対策プログラムは受けていましたが、「みんなが受けてるから」といった感覚で受けていました。「何となく受ければラッキー」なんていう甘い感覚で受験していたので、落ちて当然だつたと思います。

きる環境が欲しかったのが理由です。現役の大学生と一緒に模擬授業や模擬面接をするこゝとに、少しの照れくささもありましたが、「ここまでやる自分を奈良県が放つておく訳がない。」と聞き直れたと思います。具体的には、面接や論文に客観的な意見を言つてもらえたことで、自分のやつてきたことが間違ひではない、と自信を持つことが大きかつたと思います。

現在のお仕事についてお聞かせ下さい。

現在は生駒市立鹿ノ台小学校で3年生の担任をしています。初任者ではありませんが、臨時講師の時を含めると現任校は5年目ということ、教師としての視野も広がり、仕事の面白みが増してきていると感じています。

笑顔は楽しい居場所作りの柱

子どもたちと接する中で

一番気にかけている点は。

笑顔ですね。子どもたちが笑顔で語りかけてくれた時、発信してきてくれた時に、負けないぐらいのイキイキした笑顔を返すように心がけています。いつでも笑つていられるわけではありませんが、笑顔は、「子どもたち一人ひとりとつとの楽しい居場所」を作るための柱だと思つています。子どもたちもニコニコしている担任の先生の方がうれしいと思います。笑顔からのコミュニケーションで、学級が安心して過ごせる場所であり続けられるように心がけています。

教師として一番やりがいを

感じるときはどんなときですか。

具体的に何かが達成できたからやりがいを感ずるといふことはあまりありません。ただ、子どもたちの大きな成長を日々間近に見ることができるといふことは、この仕事ならではの喜び

だと思ひます。毎日の中ではあまり気付きませんが、三ヶ月、半年、一年というスパンで見つみた時に、子どもたちは心身ともに大きなびしろを見せてくれます。放つておいても子どもは育ちますが、そこに教師の働きかけを入れることで、より伸びていつてくれるとこれ程おもしろいことはありません。また、「次はこの方法はどうだろうか。」と試行錯誤を繰り返しても、子どもたちがあつさりそれを上回つていつてしまうことも、おもしろみだと思ひます。

今後どのような教員になつていこうとお考えですか。

子どもと共に歩むことができる教師であり続けたいと思ひます。一人ひとりの子どもに個性があり、私にも個性があります。互いに尊重しながら、一緒に悩んだり笑つたりできる身近な先生でありたいと思ひます。

「今」を充実させられる人、ステキな先生

最後に教員をめざす

後輩たちにメッセージをお願いします。

教師になろうと目指すみなさんには、必ず教員採用試験が待つています。今から不安を感じている人もいるかもしれませんが、私は4回試験に失敗しましたが、何とか教師をやつています。どんな失敗をしても、教師になりたいという想いがあれば子どもたちの前に立つことはできます。

今は大学生活を大切に、たくさん失敗や経験を積んでください。くだらないことやムダなことにも時間を費やしてみてください。友だちとたくさん遊んでたくさん話をしてください。「今」を充実させられる人は、きっと子どもたちの前でもステキな先生だと思ひます。子どもたちはそんな先生が大好きです。



「今」を充実させられる人は、きっと子どもたちの前でもステキな先生だと思ひます。

痛い目を見てやつと目が覚めたという感ずしました。

大学を卒業してからは月刊の参考書を利用して勉強していました。基本的には問題を解いて、問題に慣れていく方法が自分には合つていましたので。時間がかかりますが、重要な答申や文部科学白書は印刷して読んだり、必要などころはノートにまとめておきました。答申を読むのは手間で、参考書などのまとめたものに頼りがちになつてしまふと思ひます。でも、自分で読んで自分なりの答申の解釈をしておいた方が、答申の内容が頭に入りやすいと思ひます。

教員採用試験は自分と対話するチャンス

受験勉強を通じて

感ずたことはありますか。

受験に失敗する度に、自分を否定されたよゝうで本当に落ち込みました。「あの子は受かつているのに、どうして自分はダメなんだろうか。」という考えが、どうしても頭をよぎつてしまいました。

でも、何度も受験を重ねる内に、教員採用

ここまでやる自分を放つておく訳がない

卒業後、臨時講師として小学校に勤務されながら、大学のキャリアサロン(面接対策)を利用され受験対策をされていたと伺ひましたが、

キャリアサロンを利用して本当に良かったと思ひます。5回目の受験で、できることは何でもやるよゝうと考えて、大学にもう一度相談することにしました。それまでは自分の主観でしか受験対策ができていなかったたので、客観的に自分を見つめ直してから受験対策がで